

刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Kariya city Museum of History NEWS

CONTENTS

Next Exhibition [次回展示] -----	1
Description [解説] -----	2
Report & Column [報告&コラム] -----	3
Information [ご案内] -----	4

NEXT EXHIBITION 次回展示

企画展「豊臣秀次—刈谷に新時代をもたらした関白殿下—」

有料展

開催日 2021年10月9日(土)～11月21日(日)



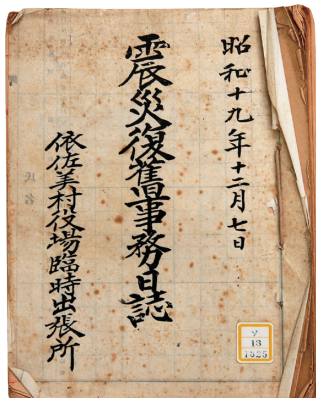
▲ 月岡芳年「月百姿」(当館蔵)

豊臣秀次は豊臣秀吉の甥で、天正19年(1591)秀吉の後任として関白になった人物です。今年は、秀次の関白任官から数えて430周年にあたります。

文禄4年(1595)秀次は謀叛の嫌疑をかけられて切腹し、妻子は皆、叔父秀吉によって殺害されるという悲劇的な最期を遂げます。本展覧会では、秀次の生涯をたどり、誤解されがちな秀次の実像を探ります。また、刈谷などの尾張・三河地域を治めていた秀次支配の実態についても迫り、この地域に与えた影響(近世化の進展)を紹介します。

※記載内容は予告なく変更することがあります。

「震災復旧事務日誌」



(当館蔵)

昭和19年(1944)年12月7日午後1時36分、紀伊半島の沖合を震源とするマグニチュード7.9の大地震が東海地方を襲いました。東南海地震です。その37日後の昭和20年1月13日午前3時38分には、マグニチュード6.8の内陸直下型地震である三河地震が発生しました。これら二つの地震は、戦時下の報道規制の中で詳細が報じられず、「隠された地震」と称されるほどに具体的な様相が知られなかった地震でした。

企画展「戦時下の刈谷」では、「戦時下の地震」と題してコラムコーナーを設け、東南海地震および三河地震が刈谷市内に及ぼした影響を伝える資料を紹介しました。その一つである『震災復旧事務日誌』は、依佐美村役場臨時出張事務所(依佐美村役場が東南海地震発生翌日小垣江に開設)が地震発生当日からの事務を記録した業務日誌です。

日誌には東南海地震を「全ク晴天ノ霹靂タル大震災ハ発生セリ時ハ恰モ午後一時四十分ナリキ」と記します。日誌によれば、12月7日の天気は快晴。まさに「晴天ノ霹靂」でした。

災害状況の把握に努め、その内容を各所に報告することが最初の業務でした。村会や県をはじめ各方面に被害を的確に報告し、支援をとりつけました。続いて、傾いた家の復旧などに従事するために大工やとびなどの職人で組織された「工作隊」

や、ほかの地区の住民や学校の生徒たちからなる「勤労奉仕隊」、軍(「豊橋部隊」)の受け入れにあたりました。工作隊は、地域の復旧にあたり、年末は12月31日まで工事に従事しました。その日の夕方には、労をねぎらって晩餐会が催されました。

一方で、戦争中という状況を反映した出来事として、空襲への対応があげられます。B29部隊が初めて名古屋を空襲した12月13日の日誌には、午後2時頃から3時30分頃まで「敵機来襲シ名古屋市ヲ中心ニ空襲シタルヲ以テ震災ノ被害ニ怯エタル村民ハ悲哀ノ極ニ達シ、防空壕に避難した」と記されています。空襲警報発令時には作業が中止されたため、空襲は復旧作業に影響を及ぼす要因の一つでした。

ようやく復旧工事が軌道に乗ったものの、今度は三河地震に見舞われました。日誌には闇夜に激震が起きた衝撃と、復旧した家屋が再び倒壊したことへの落胆が以下のように綴られています。

第二次ノ大地震ハ勃発シテ激動ハ全ク天地ヲ転倒セシムルカノ如ク老幼婦女子ノ悲鳴倒壊家屋ノ轟音相和シテ物凄ク然カモ夜陰ノ事ニテ暗黒界ノ中ニ此ノ大椿事が展開サレタルヲ以テ其ノ凄惨名状スベカラズ(中略)工作隊ノ不眠不休ヲ以テ熱心ニ樹直サレタル家屋ノ殆ハ元ノ木阿弥トナリ全ク一瞬ニシテ水泡ニ帰シタルハ如何ニモ残念至極ノ至リニテ感極マラザルヲ得ザルナリ

しかし、この後は、東南海地震の直後と同様に、状況を把握し、復旧に向けて邁進する姿が日誌に記録されていきます。

『震災復旧事務日誌』は、役場の事務日誌という一見無味乾燥な資料ではありますが、2度にわたる大地震からの復旧に向けて奔走した地域の人びとの姿が克明に描かれています。

(郷土資料館学芸員 井筒康人)

《参考文献》

- 中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会編『1944 東南海・1945 三河地震 報告書』(平成19年)
- 『愛知県史 通史編8 近代3』(平成31年)第9章「戦争末期の愛知県」
- 『刈谷市史 第3巻 近代』(平成5年)第4章第6節「昭和期の交通と度重なる地震」

REPORT 報告

企画展「歴史へのいざない—佐藤コレクションの魅力—」

2021年4月24日(土)～6月6日(日)

本展では、晩年を刈谷市東境町で過ごした佐藤峻吉が収集し、生前に各所に寄贈した資料を刈谷市中央図書館所蔵分の名称にちなみ「佐藤コレクション」と総称して紹介しました。

京都国立博物館へ寄贈し紺綬褒章の授与を受けることとなった「海龍王寺境内絵図」のほか、「羽柴秀吉朱印状」や「前田玄以黒印状」（いずれも名古屋市博物館蔵）といった貴重な古文書や、峻吉所縁の泉正寺から「鎌倉街道之図」「明智光秀書状」などを展示しました。中でも秀吉の朱印状は、他のものと比較してみると宛先による紙や右筆の使い分けや、自分を尊大に見せる工夫をしていたことなど、古文書の内容以外での発見もありました。

関連イベントでは、展示資料に関連して「惟任(明智)光秀と丹波」(講師:柴裕之氏)と、「秀吉と家康」(講師:跡部信氏)の2本の講演会を開催しました。また本展で展示した佐藤コレクションと佐藤峻吉について、当館学芸員による解説「佐藤コレクションとその魅力」を開催しました。いずれもコロナ禍ではありましたが、事前申込で座席の間隔を空けるなど感染症対策をして、対面で開催することができました。その他、クイズラリーや佐藤コレクションを素にした組立絵や双六の体験を開催しました。

改めて寄贈により資料を後世へとつないでくれた故・佐藤峻吉とご協力いただいた方々にお礼申し上げます。「歴史へのいざない—佐藤コレクションの魅力—」の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

(当館学芸員 山下智也)



▲ 展示説明会「佐藤コレクションとその魅力」

COLUMN コラム

収蔵品よもやま話 忠二郎のうつわ

【写真・左】
京・信楽焼の碗【写真・右】左から
京・信楽焼の碗
京・信楽焼の人形
瀬戸窯産 腰鍔茶碗

平成13年(2001)に士族屋敷跡を発掘した際に出土した遺物で、京・信楽焼きの碗の底に「忠二郎二」という墨書が確認できます。忠二郎とは一体誰なのでしょう。調べてみると…

発掘した場所は『刈谷市誌』所収の藩士の屋敷図によると「多米鞆負」の屋敷であることが確認できました。

『分限帳』には嘉永3年(1850)に無嗣断絶した多米健之助の跡を継いだ多米勇務がおり、この勇務が当初「忠次郎」を名乗り、安政3年(1856)に「鞆負」と名を変えていることから、おそらく多米勇務の持ち物であると考えられます。

この碗以外にも京・信楽焼きの人形や瀬戸窯産の腰鍔茶碗など様々な地域の陶磁器も出土しており、当時の物流などを伺い知ることができます。

(当館学芸員 河野あすか)

INFORMATION ご案内

歴史ひろばの展示替え

当館では3、4か月ごとに歴史ひろば（常設展示室）の展示替えを行っています。なるべく多くの資料を皆様にご紹介できるように学芸員がそれぞれ考え、選びながら展示しています。

今回は10月に展示替えを行いました。新規収蔵品の「東海道中膝栗毛」も展示しています。この機会に是非ご来館ください。



学芸員が協力して、慎重に展示替えを行います。

簡単工作

簡単工作のメニューが変わりました

- ◎ 勾玉づくり (300円)
- ◎ 折り紙「ふくろう」づくり



開催：10～12月土日祝日(11月14日、12月26日を除く)
受付：9時～16時30分

新規刊行物

「愛知県指定史跡 本刈谷貝塚確認調査報告書」

本刈谷貝塚の確認調査（平成13年～15年に実施）について、報告書を発行しました。



定価：2,000円
販売場所：当館受付

郷土資料館

ミニ展示「ちょっと昔の運動会」

昔の市内小中学校で行われていた運動会の様子を紹介します。

期間：10月1日（金）～12月15日（水）

場所：刈谷市郷土資料館 第8展示室

刈谷市城町1-25-1 お問合せ：0566-23-1488

カレンダー

10	日	月	火	水	木	金	土	11	日	月	火	水	木	金	土
						1	2								
3	4	5	6	7	8	9		7	8	9	10	11	12	13	
10	11	12	13	14	15	16		14	15	16	17	18	19	20	
17	18	19	20	21	22	23		21	22	23	24	25	26	27	
24	25	26	27	28	29	30		28	29	30					
31															

2022	12	日	月	火	水	木	金	土	1	日	月	火	水	木	金	土
						1	2	3	4							1
	5	6	7	8	9	10	11		2	3	4	5	6	7	8	
	12	13	14	15	16	17	18		9	10	11	12	13	14	15	
	19	20	21	22	23	24	25		16	17	18	19	20	21	22	
	26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29		30
									30	31						

豊臣秀次展

休館日

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時

観覧料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料

企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

鉄道 JR 東海道本線 逢妻駅 から徒歩約15分
名鉄三河線 刈谷市駅

バス 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷線・逢妻線
「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分

車 伊勢湾岸自動車道
名古屋南ICまたは豊田南ICから
約20分

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、またはTwitterをご確認ください。

※ 当館の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の詳細についてはホームページをご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1

TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108

URL: <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>



◀ 当館ホームページ
企画展・イベントの詳細や、博物館NEWSのバックナンバーを掲載しています。



◀ 公式 Twitter
最新の情報やイベントの告知など、時々つぶやいています。

※ QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。